

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

学校番号	105
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向け、自ら学び自ら考え、生き生きと豊かに表現できる児童生徒の育成 ・自他を尊重し、学校や地域で生き生きと生活できる児童生徒の育成 ・運動に親しみ、心身ともに健康で、明るく元気な児童生徒の育成
--------	---

評価する領域・分野	<p>教育活動・学習指導：<u>支援センター</u>（※番号は学校評価のアンケート項目）</p> <p>3：学校は、保護者（地域）が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気である。</p> <p>10：学校の先生は、個別の教育支援計画を児童生徒や保護者の意見を反映し、関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援をしている。</p>
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・2項目とも、9割の高評価を得ている。 ・特に、項目10については、前年度比5%増となった。個人懇談で保護者と丁寧により取りをして、個別の教育支援計画を作成できていることによるものと考えられる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 個別の教育支援計画の作成と活用をすすめ、一人一人のニーズを正確に把握し教育の視点から支援する。 (2) ケース会議・支援会議を開催し、支援に生かすとともに、校内関係者・外部関係機関の共通理解と連携を図る。 (3) 行政や福祉サービス事業所等の関係諸機関や地域の幼保・小中高校等との連携を深め、相談活動、訪問支援、親子相談教室等を行うことで、岐阜北部地域における特別支援教育のセンター的役割を担う。
重点目標を達成するための校内組織体制と具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新様式の個別の教育支援計画の作成や活用、確認を複数で行う。 ・相談支援や訪問支援には、複数の支援センター員で担当する。 ・特別支援教育コーディネーターと学部コーディネーターの活用をする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 一人一人のニーズを正確に把握し個別の教育支援計画を作成し、活用して支援できたか。 (2) ケース会議・支援会議を開催し、関係者間の共通理解と連携を図れたか。 (3) 行政、福祉、教育の関係諸機関連携を深め、地域の特別支援教育のセンター的役割を担えたか。

評価の視点	評価
① 個別の教育支援計画を作成、活用	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
② ケース会議・支援会議を開催	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③ 地域の特別支援教育のセンター的役割	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
取組状況・実践内容の成果と課題（○成果・▲課題）	総合評価
<p>○個別の教育支援計画の作成については、新様式となり、スムーズに進めることは難しかったものの、スケジュールや作成内容について吟味を重ね、保護者との合意を得ながら進めることができた。</p> <p>▲部をまたぐ進級時に、引継ぎが十分でなかった部分があった。</p> <p>○今年度連携が必要となった外部機関との支援会議や校内でのケース会議については、円滑に行うことができ、適切な支援につながることもあった。</p> <p>○地域の学校からの要請や市町の教育委員会と連携を図り、訪問支援、相談活動を行うことができた。</p> <p>○親子教室に関しては、来年度就学予定の年長児を対象に実施することができた。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D

<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画については、スケジュールや作成内容について今後も検討を重ね、スムーズな作成と活用につながるようにする。 ・ケース会議や支援会議は、進級時に、分掌内、担任や主事との引継ぎを確実に行う。 ・地域の学校からの要請に応じるときに、複数名が関われるような体制を整えたい。また、親子教室に関しては、少人数で対応できるような実施方法を検討したい。
----------------------	--

学校関係者評価 （令和7年2月27日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センターのセンター的機能が地域に広く知られ、活用されているのはよい。 ・現在、小中学校の通常の学級で適応できなくて特別支援学級に来る児童生徒が増えキャパオーバーとなり、特別支援学校に入ってくる流れがあると聞く。公開研究会やセンター的機能を通して、是非、地域の小中学校の特別支援学級や通常の学級の先生方にノウハウを伝えるという役割を担ってほしい。 ・様々な所属機関等から、数多くの相談を受け、センター的機能を果たしているが、個人からの相談を受けることがあるのか。個人でも相談できることがわかるとよい。
